

運動部活動のあり方について



問

卓球、野球、サッカー等で本町の生徒が大活躍をしている。大活躍の裏側では、成果（勝敗）を求めすぎ、生徒、保護者、指導者の負担が増加している。また、負担の増加は、全ての生徒が部活動に加入出来ない状況を生み出している。中学校学習指導要領では、部活動の意義と位置付けについて、「生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。その際、地域や学校の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行うようにすること。」と記されている。本町の部活動、特に運動

部活動が適切に運営されているか、以下について伺う。

- ① 加入率、希望者が全て加入出来ているか。
- ② 部活時間、町としての考えは。
- ③ 加入生徒の意識、学習との両立は。
- ④ 保護者の意識をどう捉えているか。
- ⑤ 顧問の指導能力と意識は。
- ⑥ 保護者や顧問の負担への支援のあり方と見直しの考えは。スクールバスの対応は。
- ⑦ 教育課程との連携、地域団体との連携は。

教育長 ① 町内5校の中学校の生徒総数は876人で、そのうち運動部に加入している生徒は645人、加入率は73.6%である。運動部に吹奏楽部とパソコン部を加えた全体では792人が加入し、加入率は90.4%となっている。在籍している学校の運動部であれば、希望者は全員

加入できているものと認識しているが、希望する運動部が学校にない場合は、他の学校の運動部に参加しているケースもある。

② 活動時間については、生徒のバランスのとれた生活や成長などに配慮し、各学校において終了時刻を定めたり、休養日を設けるなどして対応している。

生徒や教職員への負担が過重にならないよう、指導が適切に行われるようお願いをしている。

③ 運動部活動は、生涯にわたりスポーツに親しむ能力や態度を育て、体力の向上や健康の増進を図るだけでなく、学級や学年を離れ、生徒が自発的に活動を組織し展開することにより、生徒の自主性及び協調性・連帯感が育成され、仲間や教師との密接な触れ合いの場として、大きな意義を有しているものと考えている。

また、学校教育活動の一環として実施している部活動であるので、過度な練習、学習の妨げとならないよう、生徒の健康管理や生活習慣には十分に留意して実施す

るよう指導していきたい。

④ 部活動は、適切に運営されてこそ、生徒や保護者の学校への信頼感をより高めるものであり、学校の活性化、あるいは生徒全体の一体感の醸成にもつながるものと理解している。

保護者には、部活動の意義と効果について理解していただいていると考えるが練習試合の送迎など、一部の保護者に負担がかかっていることもあると思うので、保護者アンケートなどを活用しながら、保護者の負担感や意識の把握に努めていきたい。

⑤ 顧問は、日頃から生徒の健康管理や生活全般にわたる指導に留意し、教育的配慮に努めると考えている。しかしながら、指導者の人数は限られており、加入者の多い運動部では、きめ細かな指導を行う点で、十分ではないこともあるかと思うが、部活動の意義が十分に発揮されるよう、一人ひとりの個性を尊重した柔軟な指導をお願いしている。

⑥ 部活動の支援については、全道大会等へ参加する際の

旅費の一部を助成している。本年度から、旅費等の2分の1相当額の助成から、中体連・中文連等に限り、3分の2の相当額にし、参加負担金も同様とし、助成の支援を拡充し、保護者負担の軽減に努めている。

また、顧問にも、部活動指導員謝礼として、年額、1万5000円を交付し、部活動の振興に努めている。中体連等の正式な競技には、原則スクールバスを手配し対応していきたい。

⑦ 部活動は、自らの適性や興味・関心等をより深く追求する機会であることから、各教科等の目標及び内容との関係にも配慮し、生徒自身が教育課程において学習する内容について、改めてその大切さを認識するよう促すなど、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう努めている。

今後とも、学校支援地域本部事業や生涯学習リーダーバンクの活用を推進し、地域住民が学校支援ボランティアを活動するための体制整備を図り、各種団体との連携に努めていきたい。